

2050年CO₂排出「実質ゼロ」に向け 再エネのポテンシャルを最大限に活用!

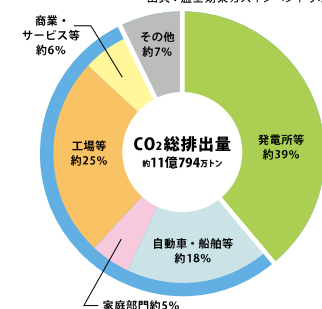
2050年CO₂排出「実質ゼロ」に向けて

日本は、2020年10月、CO₂排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。

この高い目標を達成するためには、日本のCO₂排出量の約40%を占める、発電時のCO₂排出量を削減することが欠かせません。

日本の部門別CO₂排出量割合(2019年度)

出典：温室効果ガスインベントリオフィス

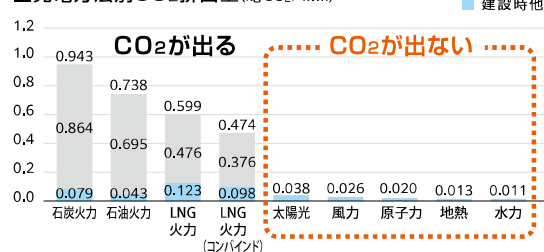


発電時のCO₂を減らすには?

① 発電時にCO₂を出さない再エネと原子力の活用

② 火力発電のCO₂削減

■発電方法別CO₂排出量(kg-CO₂/kWh)



出典：電力中央研究所「日本における発電技術のライフサイクルCO₂排出量総合評価」を基に作成

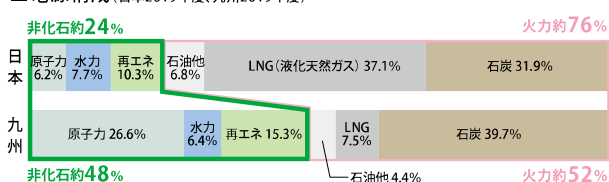
Top!c

九州はCO₂が出ない発電の割合が高い

九州電力送配電では、太陽光を中心とした再生可能エネルギーを最大限受け入れています。

なお、九州では、CO₂が出ない発電の割合が48%となっています。

■電源構成(日本2019年度、九州2019年度)



九州電力送配電の取組み

- 九州の再エネポテンシャルを最大限に活用するため、国のマスタープラン※を踏まえた連系線・基幹系統の整備・強化や送電容量の最大限の活用等、**送配電ネットワークの広域的な運用**に取り組みます。
- 再エネの大量導入と電力品質維持を両立させるため、デジタル技術の活用などによる**需給運用・系統安定化技術の高度化**に取り組みます。

送配電ネットワークの広域的な運用



需給運用・系統安定化技術の高度化



※国のマスタープランとは?

再エネ主力電源化とエネルギー供給の強靱化に対応した、送配電ネットワーク整備の長期的計画のことです。

Top!c

世界最大級の蓄電池変電所を活用しています

九州電力送配電では、世界最大級の大容量蓄電池システムを備えた豊前蓄電池変電所を設置し、最大限の再エネ受け入れに取り組んでいます。

この大容量蓄電システムは、太陽光等で発電した余剰の電気を充電したり、電気の使用量が多い時間帯に放電することができます。この機能を活用し、電気の発電量と使用量のバランス（需給バランス）を改善しています。



豊前蓄電池変電所